

日本医史学雑誌第五十三巻 総目次

原 著

本邦牛痘種痘法の鼻祖中川五郎次研究の歩み(上)

——(1)江戸時代から(5)昭和時代後期まで——

..... 松本 明知.....一九

占領期における急性感染症の発生推移

..... 田中誠二・杉田聡・森山敬子・丸井英二.....三九

「法蘭院病中日記」と島田筑波..... 深瀬 泰旦.....四九

柳川家文書による華岡青洲系譜の検証

..... 柳川泰彦・柳川和一郎.....三七

ガレノス『骨について初心者のために』

——ギリシャ語原典からの翻訳と考察

..... 坂井建雄・池田黎太郎・澤井直.....三五

本邦牛痘種痘法の鼻祖中川五郎次研究の歩み(下)

——(6)平成時代——..... 松本 明知.....四三

近世日本の屍体供養..... 香西 豊子.....五三

清末刊行の中国文人体解剖学書について

..... 松本 秀士.....五五

総 説

中川五郎次による北方系の種痘法

——京都における日野鼎哉の最初の種痘法との接点——

..... 松本 明知.....五九

シンポジウム「医史学と文学——吉村昭氏を追悼して」

一、「医史学と文学」論序説——司会にあたって——

..... 岡田 靖雄.....六七

二、吉村昭作品考 医学史関係..... 酒井 シヅ.....六五

三、医療史に支えられて時代小説・歴史小説をかく

..... 篠田 達明.....六三

四、森鷗外の脚気問題と遺書..... 荒井 保男.....六〇

ひろば

「物のあはれ」攷

——舜庵・本居宣長の医学思想との関わりから——

..... 小高 修司.....二六五

ヴェサリウスの家計

..... 泉 彪之助.....三〇三

資 料

「蠱」病攷..... 小高 修司.....六五九

池田文書の研究(三十二)..... 池田文書研究会.....三一

適塾の塾頭松下元芳の系図について

——福沢諭吉の一代前の塾頭で親友の久留米藩医——

..... 中山 茂春.....三七

池田文書の研究(三十二)..... 池田文書研究会.....四一

フランス人医師ムリエの養蚕研究について

——帝国動植物環境馴化協会の講演から——

..... 須長 泰一.....六七

追 悼

三輪卓爾先生を想う..... 小曾戸 洋.....三三

記 事

消 息

「シーボルトの足跡を辿る旅」ドイツ各地で歓迎をうける

……………中西 淳朗……………三六

韓国医史学会第九回学術大会……………真柳 誠……………四五

「相良知安先生記念碑」(東大附属病院構内) 移転を慶ぶ

……………相良 隆弘……………六九

例会抄録

江戸時代の家庭医学・看護書『病家須知』の現代語訳に

取り組んで……………中村 節子……………三六

わが国初の狂犬病人体用ワクチン開発の経緯

……………唐仁原景昭……………三九

医学史に見る齒科の歴史

——「咬合と全身」の過去と現在——

……………永田 和弘……………三三

最近二十年の中国における医学文化史研究の概要

……………朱 建平……………三三

「池田文書」の薬について……………遠藤 正治……………四六

書籍紹介

福田安典編著『伝承文学資料集成第二一輯 医説』

……………真柳 誠……………三五

中村禎里著『中国における妊娠・胎発生論の歴史』

……………鈴木 千春……………三六

三枝純郎著『肛直外科迫害史』……………中西 淳朗……………三九

川村純一著『文学に見る痘瘡』……………小田 泰子……………三〇

清水寛編著『日本帝国陸軍と精神障害兵士』……………岡田 靖雄……………三二

溝入茂著『明治日本のごみ対策——汚物掃除法はどの

ようにして成立したか——』……………中西 淳朗……………三六

Akimitsu Naruyama 編 Dr. Ikaku Ochi Collection

……………鈴木 則子……………四六

奥沢康正・園田真也共編著『眼科医家人名辞書』

……………山之内外……………四九

石田純郎著『オランダにおける蘭学医書の形成』

……………坂井 建雄……………六三

看護史研究会編 平野重誠原著『病家須知』翻刻訳注篇

〈上・下〉研究資料篇……………石原 力……………六三

秦温信著『北国から、さわやかな風を』

……………島田 保久……………六四

文庫めぐり

九州大学附属図書館医学分館貴重古医書コレクション

…………………………六六

医史学関係文献目録

平成十七年(二〇〇五年)……………順天堂大学医史学研究室編……………四一

第一〇八回 日本医学学会 総会 演題目次

会長講演

近世自家医学遺産の諸分析 田中 祐尾 七

特別講演

大坂の蘭学 解剖を中心に 酒井 シヅ 二

招待講演

From the Capital of Smoke (Kemuri no Miyako) to the Livable City (Sumigokochiyoki Toshi): "Doctoring" to the Industrial Metropolis of Osaka Jeffrey E.HANES 一七

シンポジウム 大坂の蘭学史

——その背景と展開そして特徴

- 1 大坂の蘭学と適塾 芝 哲夫 一六
- 2 大坂蘭学の実験的・実証的性格 浅井 允晶 一八
- 3 大坂の蘭学における大坂の除痘館の役割——現地調査をした分苗所を中心に 古西 義磨 二〇
- 4 大坂蘭学発祥の背景 小石 秀夫 三
- 5 人・モノ・情報——医学と医療の近代化から見た大阪について ヴォルフガング ミヒェル 二四

一般演題

1 陸軍々医学舎長緒方惟準講述の「陸軍医務沿革史」 中山 沃 三六

2 奨進医会——『医談』から『刀圭新報』へ—— 岡田 靖雄 二六

3 大阪病院の人体模型——高橋正純訳『紙塑人体解剖譜』と大江伊兵衛の木製人体模型 月澤美代子 三〇

4 黎明期の京都市学校医会 八木 聖弥 三三

5 大阪宣教師会議から京都看病婦学校へ——「もう一つの近代医療・看護」の細い系譜をたどる 小野 尚香 三四

6 ポンベの病理学総論オランダ語講義ノートの研究 相川忠臣・ハルム ボイケルス 三六

7 適塾門下生「備中窪屋郡中寫 別府真敬悻 別府琴松」について 木村丹・松田俊悟 三八

8 緒方章公裁譯稿「含密便蒙」について 有田 浩和 四〇

9 適塾の塾頭 松下元芳の系図について——福沢諭吉の一代前の塾頭で親友の筑後久留米藩医—— 中山 茂春 四三

10 杉田玄白所蔵のターヘル、アナトミアの所在 寺畑 喜朔 四四

11 病院医療の歴史的始原——わが国の療病院と古代インドの福德医薬舎 亥口 勝彦 四六

12 けがれの思想の歴史的観察 杉田 暉道 四八

13 中国伝統医学と道教(第二十七回覺世真経) 四九

- 14 『医籍考』による『四庫全書提要』の考証……………吉元 昭治……………五〇
- 15 田中彌性園の古医書……………郭 秀梅……………五三
- 16 小腹と少腹の位置……………町泉寿郎・田中祐尾……………五五
- 17 『揆穴法』『揆穴明弁』について……………木場由衣登……………五五
- 18 『名家灸選』所収の紐状物を使用した取穴法……………田中利江子・橋本典子・山崎陽子……………五八
- 19 垣本鍼源の刺絡……………友部和弘・石野尚吾……………六〇
- 20 謝観(利恒)と『中国医学大辞典』……………鶴田 泰平……………六〇
- 21 明治大正までに創設された東京の私立精神科病院……………天野陽介・小曾戸洋・石野尚吾・花輪壽彦……………六四
- 22 名古屋大学医学部の濫觴……………金川 英雄……………六六
- 23 高木兼寛の健康教育観に関する研究(第二報)——臨時教育会議での高等・大学教育改善に関する発言内容から……………高橋 昭……………六六
- 24 本邦においてヘボンが用いた教科書『衛生・生理学』書について……………芳賀佐和子・平尾真智子・蝦名總子……………七〇
- 25 公衆浴場法における営業者の役割……………島田 和幸……………七三
- 26 大正期学校衛生史の研究(四) 石原喜久太郎……………川端 美季……………七五
- 27 江戸時代の電気療法——伊藤慎蔵譯本『改正磁石靈震気療説』について……………杉浦 守邦……………七六
- 28 日本医薬・博物著述年表の編纂……………渡部 幹夫……………七八
- 29 大坂薬種中買仲間と唐薬の江戸流通……………真柳 誠……………八〇
- 30 江戸・明治期の貿易・販売資料に見られる西洋式医科器械について……………羽生 和子……………八三
- 31 高野六郎——衛生行政の専門性に関する考え方の形成をめぐる……………ヴェルフガング ミヒェル……………八四
- 32 ベルツ博士の精神とヘルテル(大阪医科大学)教授……………横田 陽子……………八六
- 33 コロトコフ法による血圧測定の普及……………山上 勝久……………八八
- 34 フロレンス・ナイチンゲールは我が国にどのように紹介されてきたか……………藤倉 一郎……………九〇
- 35 ハンガリー医学史瞥見——ゼンメルワイス医学史博物館訪問記……………上坂良子・水田真由美……………九三
- 36 「オルトペディ」の造語者、ニコラ・アンドリ……………佐藤 裕……………九四
- (一六五八—一七四二)(その一)

- 37 中世の医学者アルナウ・ダ・ピラノバ……………小林 晶……………六
- 38 占領期の医療・看護に関する出版物の検閲(三)——
長野県における保健婦の活動……………泉 彪之助……………六
- 39 脊椎麻酔事故予防に対する医史学的対策とその効果……………大石杉乃・喜多加奈子・
平尾真智子・芳賀佐和子……………一〇〇
- 40 占領期における急性感染症の発生推移(一九四五
年—一九五一年)……………松木 明知……………一〇三
- 41 戦後沖繩の保健・医療行政(その一)——アメリカ
統治下の保健・医療システム……………田中誠二・杉田聡・森山敬子・丸井英二……………一〇四
- 42 大正・昭和初期における鍼灸師法制定請願運動……………杉山 章子……………一〇六
- 43 野口英世訳カールデン著『病理学的細菌学的検究術
式綱要』の原書について……………奥津 貴子……………一〇六
- 44 野口英世の左手の「わが国初の有茎皮弁移植術」……………殿崎正明・唐沢信安・岩崎一……………二一〇
- 45 済生学舎の山田良叔講師と山田訳「蘭氏生理学」に
……………志村俊郎・唐沢信安・殿崎正明・
岩崎一・寺本明……………二二三
- 46 ついて……………岩崎一・殿崎正明・唐沢信安……………二二四
- 47 日本の口中科免許第一号 佐治職(さじ・つかさ)……………樋口 輝雄……………二二六
- 48 口内炎の病因に関する変遷……………西巻 明彦……………二二八
- 49 グラム医師の研究の経過について……………会田 恵……………二二〇
- 50 ヴォランタリ・ホスピタルが拓く地平(二)——セン
ト・ジョージ病院の設立と発展……………柳澤 波香……………二三
- 51 京都岩倉における精神病者家族的看護の衰退理由
——ベルギーのヘルとの比較において……………中村 治……………二二四
- 52 ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(五)
——骨を例にとつて……………坂井 建雄……………二二六
- 53 シルヴィウス解剖学書の情報源——ガレノスとの
比較から……………澤井 直……………二二八
- 54 『四海同春』について……………宮川 隆弘……………二三〇
- 55 宋代の脈状分類——七表八裏九道脈の変遷……………中川 俊之……………二三三
- 56 神灯照法について……………上田 善信……………二三四
- 57 『明月記』の鍼灸……………寺川 華奈……………二三五
- 58 『南冥問答』にみる「嘔」について……………小曾戸明子……………二三八
- 59 『古今方彙』各種版本の検討……………

62 平野重誠の『玉の卯槌』(一八三七)にみる凶年後の心得と看護……………中村節子・平尾真智子……………一四
 63 曲直瀬道三『薬性能毒』の研究……………野口大輔・遠藤次郎・中村輝子・真柳誠……………一五
 64 道三の姓「曲直瀬」と支朔の号「東井」に関する考察……………遠藤次郎・中村輝子・真柳誠……………一五
 65 田中彌性園の古文書・書画……………町泉寿郎・小曾戸洋・田中祐尾……………一五
 66 『病論俗解集』について……………永嶋泰玄・岩田源太郎・大井康敬……………一五
 67 谷川士清とその処方集に見られる水銀製剤……………西井 易穂……………一五
 68 私宅監置擁護論の思想的背景——精神医学者ワイガントの日本観を通して——……………橋本 明……………一六
 69 南小柿寧一とその家系(二)——南小柿宗宅……………石原 力……………一六
 70 「癘」についての一考察……………吉岡 広記……………一六

71 佐藤方定と『大同類聚方』……………後藤志朗・根本幸夫……………一六
 72 近世大坂の産科学と墮胎術……………内野 花……………一六
 73 愛日文庫蔵「魯西亞漂流之記」は山片蟠桃の著作か……………飯塚 修三……………一七
 誌上発表
 74 塩見脩也と蘭方膏薬……………中西 淳朗……………一七
 75 英国医史、中世の例……………栗本 宗治……………一七
 76 出土した中国古代医学文物(展示)……………猪飼 祥夫……………一七
 77 冬虫夏草(広義)渡来の歴史と薬物としての受容……………奥沢 康正……………一七